



樹から木へ

今回は、樹が家で使われる木材になっていく道すじをお伝えします。

1 丸太の皮をむく

原木を買い付けたら、まず皮と木の間に入っている虫などを取り除くために表面の皮をむき丸太にします。



2 製材

その後丸太の直径や芯の位置、年輪の方向、ねじれ、反りなどの特徴と照らし合わせて、1本の木材を柱材、板材、床材などに配分していきます。このとき、芯の部分は柱材に、周りは板材、床材として使用することで、破棄する木材を最小限におさえます。これを「木取り」言い、適材適所に効率よく用いるために必要な作業になります。



3 桟積み・乾燥

樹は伐っただけでは水分が多く、カビが生えたり、反りがでたりするので桟という角材を使って木材に隙間ができるように並べていき乾燥させていきます。岡部材木店では、天日や風を利用してゆっくりと乾燥させる天然乾燥（材によって違いはありますが、おおよそ柱材は1年以上、床材は6ヶ月以上乾燥させます。）を大切に行ってています。一般的には人工乾燥をさせ乾燥期間を短縮しますが、それにより材の油分もなくなってしまいます。ゆっくり時間をかけ自然の力で乾燥を行うことで木に与えるストレスが少ないため色艶よく仕上ります。



4 整形（挽き直し）

乾燥中にでた反りなどは、注文が入ったらもう一度機械を使って整形（挽き直し）を行い、それぞれの家（現場）に運ばれていきます。このことを踏まえ、製材をするときにはひと回り大きく製材を行っておきます。ここまでが、おおまかな樹から家への道すじになります。ハライソハットは、岡部材木店が原木の仕入れから一貫して行い、1つ1つ大切に育てた木材を使って作られています。

